

長坂道子 美しく、サステナブルに Sustainably Elegant

人権・環境意識の高いスイスに暮らす長坂さんは、リシェス・オブリージュの名づけ親でもあります。自身が選び抜いた上質なフェアトレード作品を通して、サステナブルな生き方とスピリットについて考えます。



ながさか・みちこ ●作家・ジャーナリスト。京都大学文学部哲学科卒業。25ans編集部にて約3年在籍後、1988年渡仏。欧米数都市に住み、執筆及び医療・福祉のボランティア活動を続ける。主な著書に「フランス女」(マガジンハウス)、『世界一ぜいたくな子育て』(光文社新書)。2008年、スイスでハイエンド・フェアトレードのセレクトショップを起業。商品や情報の発信を通じ、サステナブルなショッピングスタイルを提案

創刊30周年OG特別寄稿

変化はこれから!

Sign of Change!

Photos: YUJI ONO

誇り高くセクシーな「オーガニック」

フェアトレードとかオーガニックという言葉を聞くと、共通体験的に思い浮かべるイメージというのがある。ある種の雑誌や店舗などに代表されるそのイメージの中には、「洗いざらしのコットンとか、「心地よくていいな暮らし」といったボキャブラリー、雑穀系のご飯、そしてわかりやすいセクシーさとは無縁のルックがあり、さわやかな(けれどどこか抹香臭い)香りといったものが含まれる。

そうした「こうあるべき姿」から、まずはいったん訣別するところから、私のサステナ道ははじまった。エコとセクシーは両立しないのか、という素朴な疑問からそれははじまった、といいかえてもいいだろう。これをバブル世代の呪縛というべきか、あるいは豊かさや贅沢を味わった者の逆逆の試みというべきか、ともかく、できることを自分にとって違和感のないし方でやるしかないわけで、そのためには既存の枠にとらわれないフリースタイルで臨むしかなかったのである。

そして出会った石鹸がこれだった。オーガニックと洗練の両方を同時に手に入れることがついにかなった、そう感じて、端的に私は嬉しかった。これなら許せる、いやそれどころか、喜んで自分のバスルームに置きたい。これはまさにそういう石鹸なのだ。

生活のあれやこれやに「こだわり」をもち、「厳しい美意識の基準」を設けることは、私にとっては決して面倒なことではなく、単純に楽しい作業である。石鹸というのもまた、そんな作業の小さな断片のひとつであり、だから「そのへんのを適当に」というわけにはどうしてもいかない。セルジュルタンズの香りや、モロッコ産の上質アルガンオイルを愛用するのであれば、石鹸選びにもまた、同じく高いハードルを課さなければ「貫性がない。不景気

とかデフレといった言葉で形容されるこの大変な時代に、そんな悠長なことを……と批判されてもちっとも構わない。どこでどうやってつくられているかもわからぬ安物に、「これは得だ」と群がってはかりいっては、家の中は散らかる一方だし、世界はちっともマシにならない。

とっておきの美しい石鹸をひとつ。それを大事に最後まで使い切る。オーガニックものの独特の、あのちよつと薬屋さんほい匂いとはそれは無縁で、香りはあくまでノーブルで誇り高い。フランス南西部のラポラトリーで調合される自然の成分は、肌を優しくすべらかにする。邪魔にならぬ、けれど確固とした静かな主張がそこにはあつて、まるで、あなたのサステナ道をそのまま進んでいけばいいんですよ、と背中を押されるよう。

たかが石鹸ひとつ。されどそれは、使い手の美意識とサステナ度をはかる、手こわい踏み絵というふうにいえるかもしれない。心してかかるといえる。



「エレガンスがオーガニックと出会うとき」——これは今回ご紹介する石鹸の作り手「シチズンゼオ」が発するメッセージだ。植物療法ドクターによって開発されたそのコレクションは、オーガニックの植物性油脂に、高品質のアルガンオイルとシアバターを加えてつくられている。オーガニックものとしては例外的にあわ立ちがよいのもお薦めのポイント。写真のものは正方形4個入りで52スイスフラン。バラ型4個入り28スイスフラン。※1スイスフラン≒¥91(2010年1月現在) ●お問い合わせ[fairy tale select]info@fairytaleselect.com <http://www.fairytaleselect.com/>